

23 ただ、次のことを彼らに命じて言った。『わたしの声に聞き従え。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。あなたがたが幸せになるために、わたしが命じるすべての道に歩め。』

24 しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、頑なで悪い心のはかりごとによって歩み、前進どころか後退した。

25 あなたがたの先祖がエジプトの地を出た日から今日まで、わたしがあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わしたが、

26 彼らはわたしに聞かず、耳を傾けもせず、うなじを固くする者となり、先祖たちよりも悪くなった。

27 あなたが彼らにこれらのことをすべて語っても、彼らはあなたに聞かず、彼らを呼んでも、彼らはあなたに答えない。

28 そこであなたは彼らに言え。この民は、自分の神、【主】の声を聞かず、懲らしめを受け入れなかった民だ。真実は消え失せ、彼らの口から断たれた。

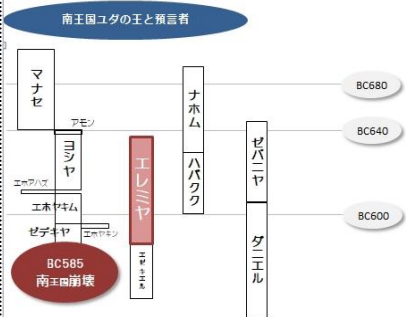
【ヘブル人への手紙】

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられること、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。

【マルコの福音書】

12:33 そして、心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛すること、また隣人を自分自身のように愛することは、どんな全焼のいけにえよりもはるかにすぐれています。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2020年7月26日(日)

礼拝メッセージノート

「いけにえでなく従順を」

エレミヤ書講解-20 エレミヤ書7:16~28 他 小野寺望 牧師

【エレミヤ書 7章】

16 あなたは、この民のために祈ってはならない。彼らのために叫んだり、祈りをささげたりしてはならない。わたしにとりなしをしてはならない。わたしはあなたの願いを聞かないからだ。

17 彼らがユダの町々や、エルサレムの通りで何をしているのか、あなたを見ているのか。

18 子どもたちは薪を集め、父たちは火をたき、女たちは麦粉をこねて『天の女王』のための供えのパン菓子を作り、また、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いで、わたしの怒りを引き起こそうとしている。

19 わたしの怒りを彼らが引き起こそうとしているというのか——【主】のことば——むしろ、自分たちを怒らせ、自分たちの恥をさらすことになっているのではないか。」

20 それゆえ、【神】である主はこう言われる。「見よ。わたしの怒りと憤りは、この場所に、人と家畜、畑の木と地の産物に注がれ、それは燃えて、消えることがない。」

21 イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。「あなたがたの全焼のささげ物を、いけにえに加え、その肉を食べよ。」

22 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出したとき、彼らに全焼のささげ物や、いけにえについて何も語らず、命じもしなかった。

(4ページへ続く)

◆ はじめに

民を神から引き離す偶像と悪魔の働き

1. 信仰の真ん中にあるべきもの

- * 御心に適った悲しみ（7：11）と、その先にある希望
- * 今日の箇所は、前回の神殿のメッセージの中断ともとれる。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

愛に基づく信仰で応答せよ

* このメッセージは、愛に基づく信仰について学ぶものである。

=====

I とりなしの祈りの禁止（16～20節）

1. 理由：神の怒りが頂点に達した。

- (1) 異教の神々を礼拝し、いけにえをささげていた。（混合宗教）
 - (2) 「天の女王」：バビロンの女神イシュタル（同44章、アモ5：26）
 - * バアルの妻で、豊穡と愛と戦争の女神と理解される。
 - * 神殿娼婦と交わされる淫行に、妻は夫を送り出していた。
 - ① 地方により様々な名称で呼ばれるが本質は同じ。
 - アシュタロテ（カナン人）、アシェラ（ヘブル人）、アフロディテ（ギリシャ人）、ビーナス（ローマ人）
- * タムズ（エゼ8：14）は「ドゥムジ」と呼ばれアシュタロテの愛人。
- ② 偶像礼拝の実態
 - 「…バアルとアシュタロテ…」 土2：13、10：6
 - 「バアルやシュタロテの神々」 1サム7：4
 - バアル・ベリテ（契約のバアル〈主〉の意） 土8：33
 - バアル・ゼブル（命のバアル〈主〉の意） 2列1：3
- ③ ソロモンにさかのぼる罪
 - * シドン人の神アシュタロテと、アモン人の神ミルコム（モレク）に従った。（1列11：5）



2. 偶像礼拝の儀式

- (1) いけにえの備え方
 - ① マナセ王時代の霊的墮落が最悪の状況・・・ 2列21：3、23：4～14
 - ② 家族で儀式を行い、偶像に仕えていた。
 - * 子は薪を集め、父が火を炊き、母は星か三日月のパン菓子を焼く。

③ 神殿娼婦が既にあった。

II 従順はいけにえに優先する（21～28節）

1. いけにえ自体を嫌っているのではない。

- (1) シナイ契約に基づく律法が命じている。
 - ① いけにえの価値を否定しているのではない。肝心なものが欠けている。
 - (2) 彼らの内には度重なる不従順の罪があった。
 - ① 預言者の声に従わない。
 - ② 混合宗教（偶像礼拝）
 - (3) 表面上の儀式が、神に評価されるのではない。
 - ① 神に従順に生きることに、いけにえをささげることが含まれている。
 - * 信仰の表現としての行動が必要なことは、今も変わらない。ヤコ2：14
 - ② 最も大切なのは、いけにえではなく従順である。
 - ③ もし彼らが従順になるなら、律法に従い物質面・霊的面で祝福が保証された。
 - * 当然市中から偽りや暴力は少なくなり、道徳面が正される。

2. 悔い改めを求めている

- (1) 神は悔い改めを求めている。
 - ① 29節以降で「髪を切れ」という命令の意味：失敗を認めてやり直す。
- (2) エジプトから解放して結んだ契約と、預言者のことばに立ち返れ。
 - ① ここまで戻って、ささげるいけにえは初めて評価に値する（22節）
 - ② かたくなな民は、法によるさばきと矯正の悲劇を繰り返す（23節以降）

◆ まとめ：愛に基づく信仰で応答せよ

- ① 神は、今も真の愛に基づく信仰を求めておられる。
 - * マタイ9：13 いけにえより、真実の愛を喜び（イエス・キリスト）
 - * マコ12：33 信仰の黄金律はいけにえに勝る（イエス・キリスト）
 - * 1コリ13：2 真の信仰は「愛」に基づく（この聖句の信仰は救いに至る信仰ではない）
- ② とりなしの必要
 - * 信者がささげるとりなしの必要（1テモ2：1）
 - * 天の大祭司イエスによるとりなし（クリスチャン生活に必須の力）
 - ・ 信者に悪いことが起こらないように、という祈り。
 - ・ 悪いことが起きた時、速やかにきよめられるように、という祈り。
 - * とりなしの祈りをするな」という命令の厳しさ。
- ③ クリスチャンがすべきささげ物
 - * キリストの手本に倣う（ピリ2：8）